

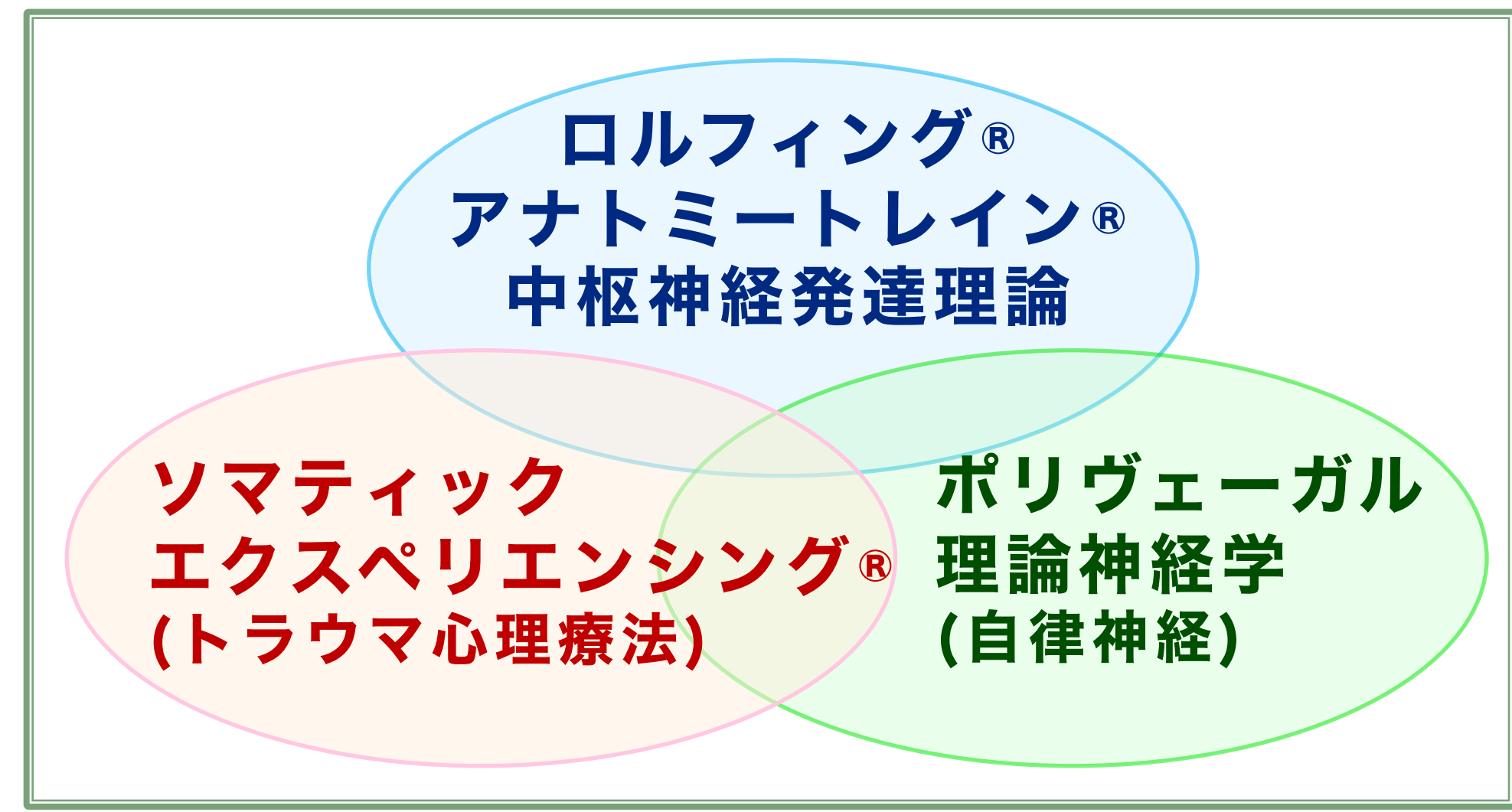
小児口腔育成を効果的にサポートする正しい姿勢教育の症例の紹介

所属：コドモの姿勢®LABO / オカダデンタルオフィス
氏名：茂利尚子 / 岡田淳 岡田陽子 渡邊葉子



背景

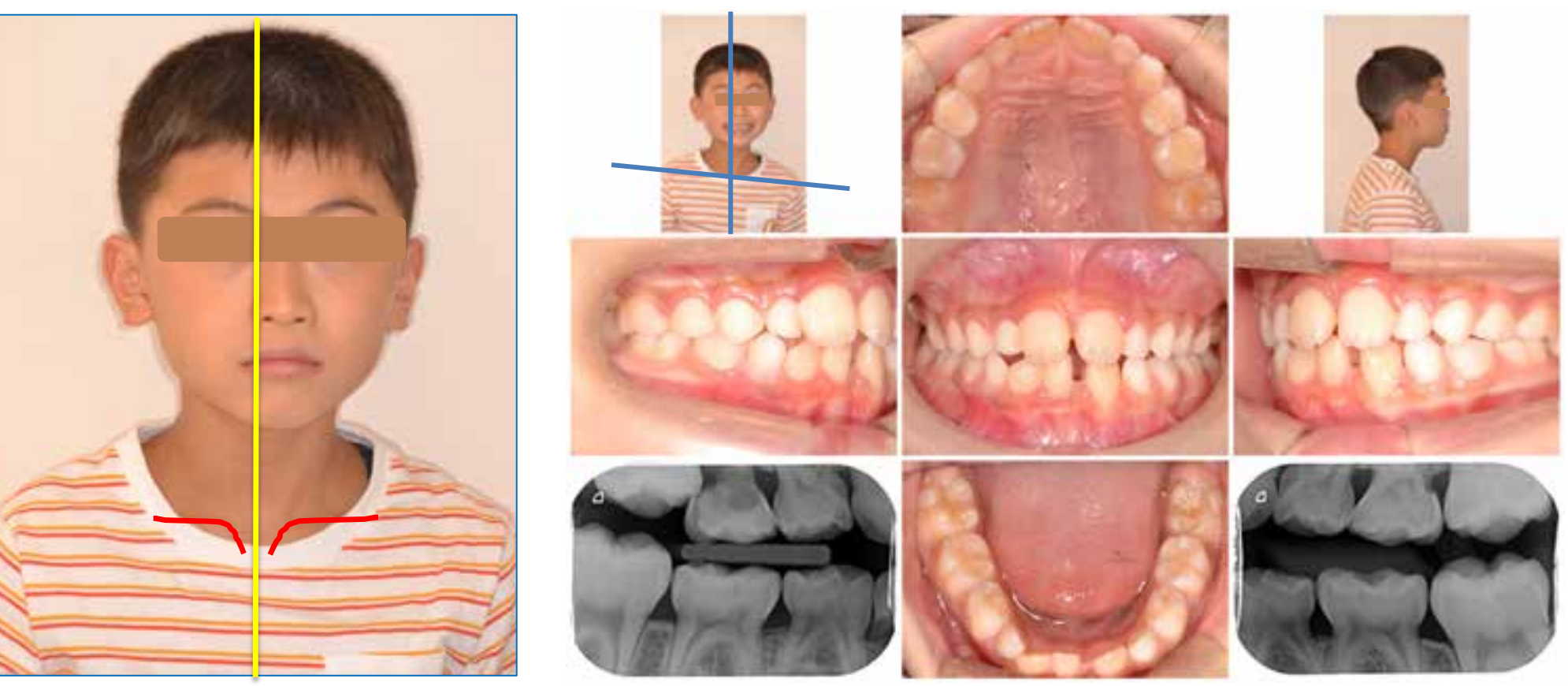
小児口腔育成において、姿勢不良があると十分な成果が得られにくいという課題がある。姿勢不良のまま矯正治療を行い、歯列や咬合の改善は得られても、口腔機能不全が残存・効果が後戻りする症例は少なくない。そこで、筋膜にアプローチするロルフィン®、子どもの行動変容を促す身体心理療法、解剖学などの知見を基に構築した『姿勢教育プログラム』で、口腔育成を効果的にサポートする症例を紹介する。



症例

初診時より姿勢不良がある患児(小3)。矯正治療後も残存した低位舌・舌突出に対し、歯科のスタッフが姿勢プログラムを実施しその経過を観察した。子どもが身体感覚をイメージしやすい言語表現を用い、来院時に姿勢評価と姿勢誘導を実施、保護者へ家庭での声かけ方法を共有した。

【写真①】矯正治療開始時 2022年10月(小3)



歯並び悪く体が傾く。口が開きやすく舌が唇の方にてでくる。下顎が3 incisorで低位舌により歯間離開あり、口唇閉鎖が弱く、上顎前歯も唇側へ傾斜。

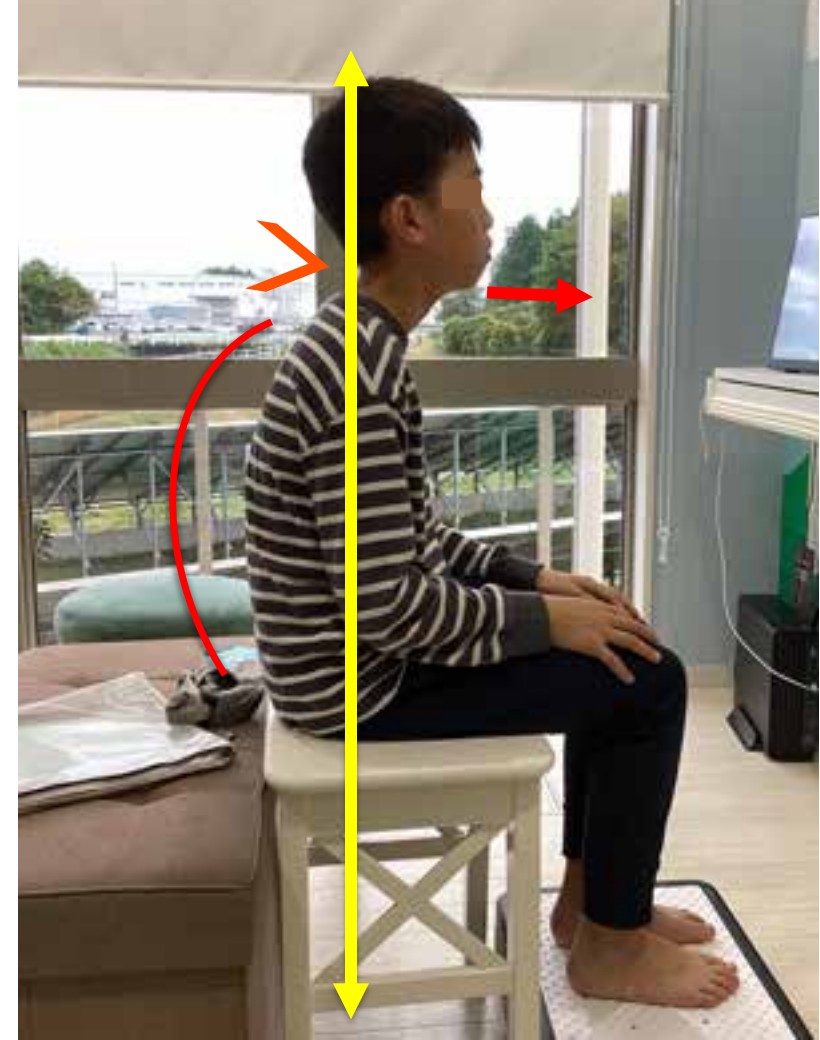
【写真②】矯正治療後・姿勢教育前 2024年9月(小5)



歯列・咬合の改善するも、依然、低位舌・舌突出が残り後戻りの心配あり。矯正治療当初から姿勢の悪さは気になっていたが、アプローチ方法がわからず、口腔筋機能トレーニング等をメインに行っていた。特に反り腰が顕著。

【写真③】姿勢教育導入～現在

2024年10月(小5)



身体の癖をリセットする呼吸ワークを実施。身体の使い方を指導し、1回で反り腰が大きく軽減。

2024年12月



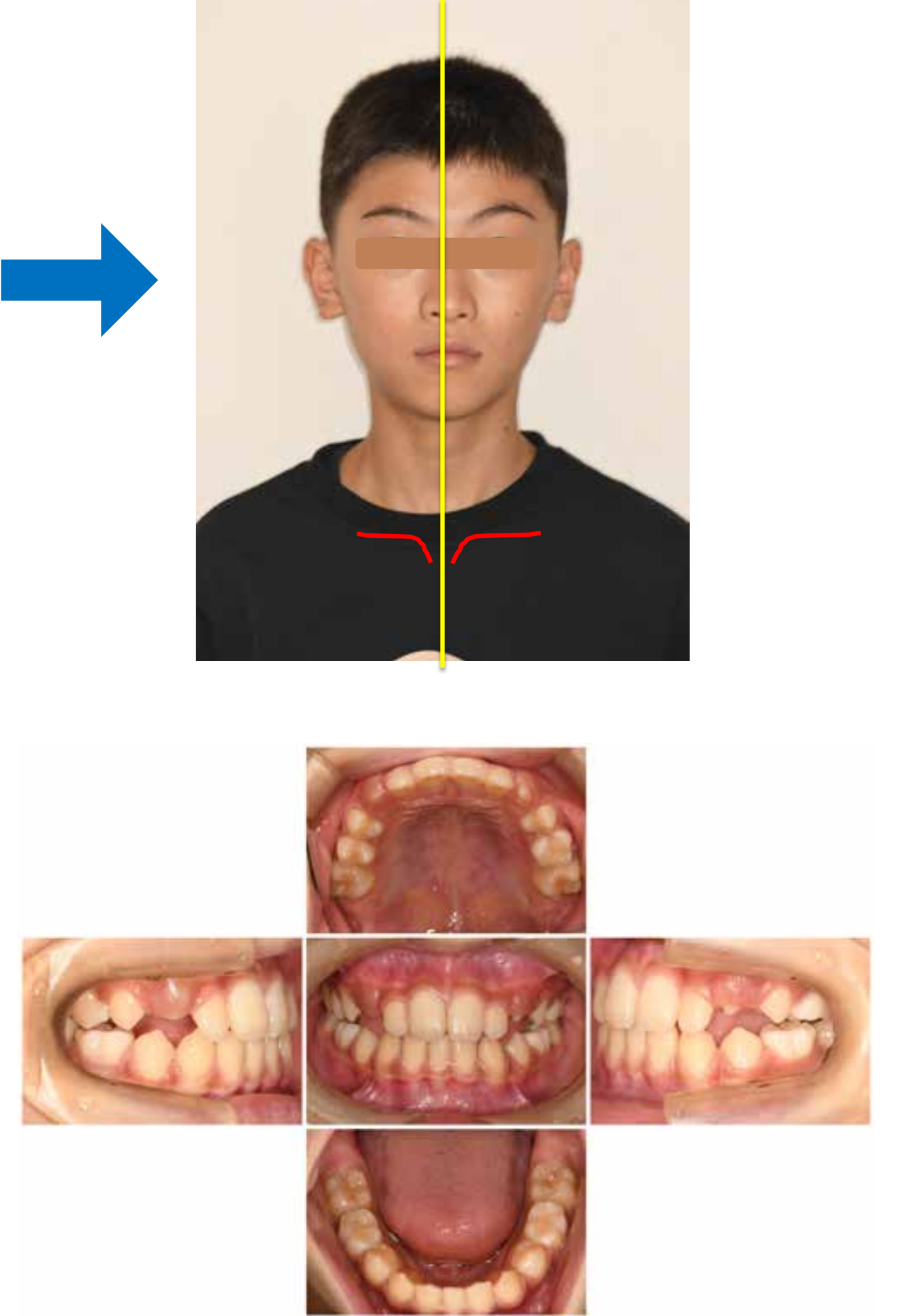
足裏からの筋膜アプローチを行う。反り腰の要因となる膝の過伸展改善。舌位が安定した。

2025年9月



身体の重心バランスが取れるようになり、下顎が本来の位置に戻った。それに伴い、舌位安定が持続し、低位舌の改善・舌突出の改善が認められた。保定期間中も、歯列だけでなく舌位や姿勢も安定が認められた。猫背・反り腰の改善も持続している。

2025年10月(小6)



結果

姿勢教育プログラム導入後、患児の立位および座位姿勢に明らかな改善が認められた。患児自身が姿勢の変化を体感し、自ら正しい姿勢へ調整する様子がみられた。姿勢の安定と連動して舌位の安定が認められ、低位舌および舌突出の改善が確認された。保定期間中も歯列のみならず、舌位および姿勢の安定が維持されている。

※ オカダデンタルオフィスでは2024年10月のプログラム導入以降、約70名の患児に姿勢教育を実施。個人差はあるものの全員に成果がみられた。

考察

本症例では、全身姿勢の改善が口腔機能の安定・矯正効果の後戻り予防に寄与することが示唆された。子どもが理解しやすい言語表現・方法を用いた指導により、患児が正しい姿勢を自身で調整する方法を身につけ、日常生活の中で崩れる姿勢をその都度リセットできるようになったことが、舌位の持続的安定に影響した可能性がある。

結論

全身姿勢への介入は、小児口腔育成安定に寄与する可能性が示唆された。本プログラムは、口腔内に影響する筋膜や筋肉に過度な緊張をさせない正しい姿勢教育を、歯科医院のスタッフが実施可能であり、臨床応用の有用性が期待される。また、姿勢に関わる知識に加えて、子どもが安心・安全を感じられる関わり方(行動、言葉かけ、問いかけ、触れ方など)、歯科医院における心理的安全性を合わせて学べるプログラムであることが重要であり、姿勢教育の定着に直結すると考えます。

